

2015年12月24日

SAAJ NEWS RELEASE

意見募集「2015年アジェンダ協議」について意見書を提出

公益社団法人 日本証券アナリスト協会（会長：大場 昭義 東京海上アセットマネジメン
ト株式会社 代表取締役社長）は、2015年8月11日に国際会計基準審議会（以下IASB）
が公表した意見募集「2015年アジェンダ協議」（以下RV）について意見書を作成し、12月
24日にIASBへ提出しました。

【意見書のポイント】

- ✓ RVに示された17のプロジェクトの中では、「開示に関する取組み—開示原則」「基本財務諸表（以前の業績報告）」「事業の定義」の3つが、重要度、緊急度の高いプロジェクトと考えている。「開示原則」と「基本財務諸表」は企業情報開示の根幹に係り、両者は密接に関連するため、セットで議論すべきである。さらに、企業における本業の収支を示す営業利益などの段階利益を、損益計算書の構成要素として明確に定義することは、「基本財務諸表」プロジェクトの最優先課題である。また、事業形態によって利益の特性は異なるため、この課題の解決には「事業の定義」プロジェクトにおいて、事業形態の相違による利益特性の相違を明確に整理することが必要であろう。
- ✓ 我々は純利益を財務諸表の構成要素として定義することを強く主張している。現行の公開草案による「概念フレームワーク」の改定作業を2017年で完了した後に、「基本財務諸表」プロジェクトなどと連動して、純利益を財務諸表の構成要素として定義する作業にIASBのリソースを優先的に投入し、世界中の投資家が最も重視している純利益の定義を、早急に「概念フレームワーク」へ追加することを要請する。
- ✓ 経済環境や事業環境の急速な変化に対して、アジェンダの見直しが5年サイクルでは長すぎるとの声もあったが、現状の基準レベルのプロジェクトの進捗ペースや、IASBのリソースの制約などを考慮すると、5年サイクルへの変更も止むを得ないであろう。なお、5年サイクルに変更する場合、IASBのアジェンダ協議とIFRS財団の戦略および有効性のレビューは、その頻度と実施時期を連係させた方が効率的である。さらに、アジェンダの途中経過を把握して問題点や改善策を検討するため、会計基準アドバイザー・フォーラム（ASAF）の位置づけ、機能、役割などの見直しを含めて、途中経過のチェックに有効な仕組みについて検討することを提案する。

【添付資料1】 *Re: Comments on Request for Views “2015 Agenda Consultation”*

【添付資料2】 意見募集「2015年アジェンダ協議」について

本件に関するお問い合わせは下記まで

SAAJ 公益社団法人 日本証券アナリスト協会

電話：03-3666-1577

担当：教育第1企画部長 かいます 貝増 眞